

プシューケー・息 Vol.3

## うたうだけ

ソプラノ:小林沙羅

### プログラム

- M.ラヴェル：ステファヌ・マラルメの3つの詩 (1913)  
Maurice Ravel: 3 Poèmes de Stéphan Mallarmé
- 伊左治 直：人生のモットー (2014/2023)  
Sunao Isaji: Motto
- 伊左治 直：炎の蔦 (2013/2014)  
Sunao Isaji: Fire Vine
- M.ファリャ (編:壺井一步)：7つのスペイン民謡 (1914/2023)  
Manuel de Falla (arr. I.Tsuboi): Siete Canciones Populares Españolas
- 藤倉 大：世界にあてた私の手紙 (2012/2014/2018)  
Dai Fujikura: My Letter to the World
- 武満 徹 (編:上屋安由美)：「ソングス」 (1962/2023) より  
Toru Takemitsu (arr. A.Kamiya): From Songs
- C.バウクホルト：デュエット (2002)  
Carola Bauckholt: Duett
- 久木山 直：浮遊する粒子 (2020)  
Naoshi Kukiyama: Floating Particles of Love

2023  
12/16 Sat.

東京オペラシティリサイタルホール  
13:30開場 14:00開演

### 出演者

#### Ensemble NOMAD

佐藤紀雄 (cond/gt) 木ノ脇道元 (fl) 菊地秀夫 (cl)  
野口千代光・花田和加子 (vn) 甲斐史子 (va)  
菊地知也 (vc) 佐藤洋嗣 (cb) 加藤訓子 (perc) 中川賢一 (pf)

#### Guests

小林沙羅 (sop)  
鈴木 茜 (fl) 内山厚志 (cl)

### チケット

#### 【前売】

一般 ¥4,000  
大学生 ¥2,000  
高校生以下 ¥1,000

#### 【当日】

一般 ¥4,500  
大学生 ¥2,500  
高校生以下 ¥1,500

(就学前のお子様のご同伴・ご来場はご遠慮下さい)

### チケット取り扱い

東京オペラシティ チケットセンター  
Tel:03-5353-9999

アンサンブル・ノマド ウェブサイト  
<http://www.ensemble-nomad.com/>

### お問い合わせ

#### キーノート

Tel:0422-44-1165

#### Mail

[keynote\\_music@fol.hi-ho.ne.jp](mailto:keynote_music@fol.hi-ho.ne.jp)

# アンサンブル・ノマド 第80回定期演奏会



## プシューケー・息 Vol.3 うたうだけ ソプラノ:小林沙羅

私たち人間はその身体を使って踊る事と同様、身体の一部である声と息をつかって歌ってきた。そして日本語には歌う、謡う、詠う、謳うなどの言葉が与えられているように、その行為には豊かな広がりがあった。世界に目を向ければ、歌に欠くことの出来ない歌詞がイメージやメッセージを時代を越えて伝えてきた。国や地域が変われば言語もかわり、その言葉の微妙な表現の差は大きく音楽に影響を与えてきた。このプログラムではフランス、スペイン、ドイツ、そして様々な世代の日本の作曲家の作品を、千変万化の声を操るソプラノ歌手小林沙羅さんをゲストにお迎えして楽しむ機会を得る事ができるにちがいない。

佐藤 紀雄

### Ensemble NOMAD



© Maki Takagi

#80出演者 / 佐藤紀雄 (cond/gt) 木ノ脇道元 (fl) 菊地秀夫 (cl) 野口千代光・花田和加子 (vn) 甲斐史子 (va) 菊地知也 (vc) 佐藤洋嗣 (cb) 加藤訓子 (perc) 中川賢一 (pf)

### Guests



© Nippon Columbia

小林沙羅 (ソプラノ)



鈴木 茜 (フルート)



内山厚志 (クラリネット)

### Ensemble NOMAD

1997年、ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって集まった、無類の個性豊かな演奏家によって結成されたアンサンブル。「NOMAD」(遊牧、漂流)の名にふさわしく、時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプログラムによって独自の世界を表現するアンサンブルとして内外から注目されてきた。2002年度に行った第15回定期演奏会「ケージとメシアンの間で交わす自然と宇宙に関する往復書簡」は大きな反響をよび、サントリー音楽財団「第2回佐治敬三賞」を、2014年度に行った第52回定期演奏会「再生へ vol 3: 祈り〜エストニアから震災復興を祈るコンサート」により「第3回ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞」を受賞した。海外からの招待も多く、2000年オランダの「ガウデアムス音楽週間」、2003年ベネズエラで行なわれた「フェスティバル・アテンポ」、2005年11月パリで行われた「フェスティバル・アテンポ」およびイギリスの「ハダースフィールド現代音楽祭」、2007年にはメキシコの「モレリア音楽祭」、また2008年10月にはソウルでの「パン・ミュージック・フェスティバル」などに出演。2009年秋には、中国の北京首都師範大学、北京中央音楽学院、四川音楽学院で中国人作品を中心としたプログラムの公演を行ない、好評を博した。2011年には2度目の韓国公演を開催。2013年7月にはエストニアとオランダで公演を開催。2014年にはメキシコの「セルバンティノ音楽祭」に日本を代表するアンサンブルの1つとして招聘された。2015年12月に再び中国四川公演を行い、2020年には「ライブツィヒ現代音楽祭」にonlineで参加。今後も中国やフランス、メキシコなどでの公演を予定している。また、近年ではアウトリーチ活動にも積極的に取り組み、保育所、病院、小学校、特別支援学校等で訪問コンサートやワークショップを行なっている。

CDは、これまで近藤 譲「梶子」、「空の眺め」、「オリエント・オリエンテーション」、「表面・奥行き・色彩」、「昼と夜」、石田秀実「神聖な杜の湿り気を運ぶもの」、池辺晋一郎「炎の資格」、福士則夫「花降る森」が発売されている他、藤倉 大の「Turtle Totem」、「Diamond Dust」、「glorious Clouds」にもライブ録音が収録されている。海外では2011年秋にエベルト・バスケスの「Bestiario (動物寓話集)」、2015年秋に「Pruebas de vida (生命の証)」がリリースされている。2014年にはオリジナル・アルバム「めぐる—Meguru」を発売。2015年夏から秋にかけて発売された「現代中国の作曲家たち」シリーズは、レコード芸術誌の特選盤や朝日新聞の「for your collection」推薦盤に選ばれている。公式ウェブサイト: [www.ensemble-nomad.com/](http://www.ensemble-nomad.com/)



東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティB1F Tel: 03-5353-0788  
京王新線「初台駅」東口下車徒歩3分

Photos (表): © Nippon Columbia (小林沙羅)  
© Maki Takagi (Ensemble NOMAD)